

# 令和4年3月18日 あさぎりの郷・生活支援講演会開催 “報告”

朝来地区でも少子高齢化が進む中、生活の現状を知る必要があるのではと、昨年7~8月アンケート調査を実施しました。そして、地域の希望するサービス 上位の3つ(①気軽に立ち寄れる居場所“あさぎりカフェ”、②環境整備“ちょいかせ”草取り・草刈り、③健康づくり教室“送迎付きあさぎり食事会”から試験的取組を進めています。そんな中、令和5年4月以降本格的な支え合い活動を開始するにあたり、医療・介護保険制度に大変精通された 国民健康保険中央会原勝則理事長 を東京よりお招きし、そして 国東市内で先進的な支え合い活動地区上国崎地区の取組報告 をご講演頂きました。朝来地区の少子高齢・人口減少のピンチをチャンスに！ 変えるためにも！！ 今後とも地区民の皆さんの、ご理解とご協力の程よろしくお願い致します。

「支え合い」でくらしと地域を元気に！  
~これからの医療・介護保険制度と自助・互助の取組み~



## 参加者60名



### 【講師】

元 厚生労働審議官老健局長  
公益社団法人 国民健康保険中央会 理事長 原 勝則 氏  
厚生労働省で介護・医療を中心とした制度設計に携わってこられた原先生に、現在の医療・介護保険制度を取り巻く状況や 互助の重要性について ご講演頂きました。

## 原先生のポイント資料集①~④ (一部抜粋)

### 地域包括ケアシステム(植木鉢の絵)と自助・互助・共助・公助の役割分担

**自助:** ・介護保険・医療保険の自己負担部分  
・市場サービスの購入  
・自身や家族による対応

**互助:** ・費用負担が制度的に保障されていないボランティアなどの支援、地域住民の取組み

**共助:** ・介護保険・医療保険制度による給付

**公助:** ・介護保険・医療保険の公費(税金)部分  
・自治体等が提供するサービス

## 資料①

### 少子高齢化が進む中で「持続可能な介護保険制度」を作ることが課題

の提供を続けられること

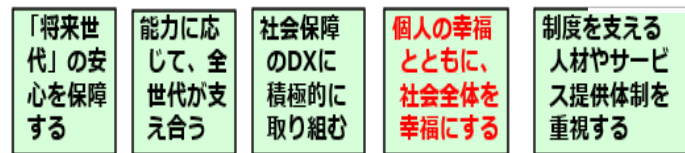
政府は今、「全世代型社会保障改革」に取り組んでいる

〇令和4年12月「全世代型社会保障改革構築会議報告書」より

目指すべき社会の将来方向

- > 「少子化・人口減少」の流れを変える
- > これからも続く「超高齢社会」に備える
- > 「地域の支え合い」を強める

5つの基本理念



全世代型社会保障の構築に向けた取組

時間軸の視点

地域軸の視点

## 資料②

地域包括ケアシステムとは、高齢者が一人暮らしや認知症になっても、住み慣れた自宅や地域で最後まで暮らしていけるよう、5つのサービス(医療、介護、生活支援、予防、住まい)が確保される仕組みと自助・互助・共助・公助の役割分担(資料①)がある中で、今後特に“自助と互助”が重要になってきています。高齢者の自助(健康づくり)と互助(生活の支え合い)の取組は“地域づくり”に他なりません。そして、政府も今「全世代型社会保障改革」に取り組んでいる「目指すべき社会の将来方向の中に「地域の支え合い」を強めると明記された事(資料②)。生活支援は自らの健康づくり・生きがいづくりにつながる事(資料③)、自助と互助への取組の三つの合言葉 1.動き出さなければ何も生まれない! 2.継続こそ力! 3.続けるためにも楽しんでやろう!(資料④)と心温かい講演とメッセージを朝来に届けて下さいました。又、原先生に再会出来る事を楽しみにしております。大変感謝です。

### 生活支援は自らの健康づくり・生きがいづくりにつながる

地域住民の参加 (通いの場)

平成26年の介護保険制度改革の基本的考え方

生活支援サービス

- 〇ニーズに合った多様なサービス種別
- 〇住民主体、NPO、民間企業等多様な主体によるサービス提供

生活支援の担い手としての社会参加



- 〇現役時代の能力を活かした活動
- 〇興味関心がある活動
- 〇新たにチャレンジする活動

- ・一般就労、起業
- ・趣味活動
- ・健康づくり活動、地域活動
- ・介護、福祉以外のボランティア活動 等

互助

## 資料③

自助

### 自助と互助への取組の三つの合言葉

高齢者の自助(健康づくり)と互助(生活の支え合い)の取組は地域づくり



動き出さなければ何も生まれない!

継続こそ力!

続けるためにも楽しんでやろう!

## 資料④